

神奈川県保健医療計画 進捗状況評価調書

＜項目＞

第9章 その他の疾病対策等

第1節 感染症

とりまとめ担当課：保健福祉局保健医療部健康危機管理課

1 課題に対する平成26年度の実績

(1) 感染症対策	<p>→神奈川県新型インフルエンザ等対策行動計画において定める「神奈川県新型インフルエンザ等対策本部」について本部要綱を作成した。(平成27年1月)</p> <p>→感染症にかかる医療を提供する体制として、感染症指定医療機関の指定をしている。(第一種感染症指定医療機関2床 第二種感染症指定医療機関 72床)</p>
(2) エイズ対策	<p>→NPOと協働し、セクシュアルマイノリティを対象としたHIV検査を実施した。(45名)</p> <p>→厚木市立病院等による高齢HIV感染者の診療や受入れに関する講演を行った。(41名)</p> <p>→中学生・高校生を対象に、性感染症の講演会を行った。(102校、18,262名)</p>
(3) 結核対策	<p>→私立学校や社会福祉施設等に対し定期の健康診断にあたっての補助を行った。(116施設)</p> <p>また、患者発生時においては、積極的に接触者健診を実施した。(延べ1,512名)</p> <p>→服薬支援について、患者に直接面会を図るとともに、登録患者全員を対象として実施するよう要綱改正を行った。(平成26年 新登録結核患者数1,329名)</p>
(4) 予防接種の推進	<p>→風しん撲滅作戦</p> <p>＜概要＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年12月26日定例会見で知事が「風しん撲滅作戦」を発表、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、「神奈川県から風しんの流行を発生させない」「今後妊娠する人から先天性風しん症候群を出さない」ことを目指し、予防接種の必要性を訴える広報戦略の展開、市町村が行う予防接種費用の助成に対する補助の継続、国庫補助による無料の風しん抗体検査、企業への風しん予防の働きかけ等を行った。
(5) 神奈川版ACIPの設置	<p>→神奈川県予防接種研究会における審議</p> <p>＜概要＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年8月5日、第3回研究会開催。事務局から子宮頸がん予防ワクチンの副反応に係る国の検討部会の経過等について報告後、予防接種健康被害救済制度のあり方について委員による基調報告が行われた。 ・平成27年1月28日、第4回研究会開催。事務局から子宮頸がんワクチンに係る県の対応等について報告後、予防接種健康被害救済制度のあり方について議論された。

2 参考指標の推移

取組 区分	指標 区分	指標名	単位	神奈川県			出典等
				H24 年度	H25 年度	H26 年度	

3 課題ごとの進捗状況の評価

(1) 感染症対策

評価	① ・ B ・ C ・ D
評価分析	平成 27 年 1 月に、新型インフルエンザ等対策行動計画に定める「新型インフルエンザ等訓練」（新型インフルエンザ等対策特別措置法第 12 条）を政府訓練日と同日に実施し、新型インフルエンザ等対策本部要綱により本部訓練を実施するとともに、情報伝達訓練で関係機関への連絡体制を確認した。
評価理由	関係機関との連携した危機管理体制の整備について、課題解決に向けて順調に進捗している。
今後の取組みの方向性	引き続き、感染症のまん延防止に関する事項の実施と、感染症にかかる医療を提供する体制の確保について関係機関等と連携を図っていく。

(2) エイズ対策

評価	A ・ ② ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> ・セクシュアルマイノリティに配慮した HIV 検査を実施できた。 ・中高生の性感染症についての理解を深め予防啓発につなげることができた。 ・高齢 HIV 感染者の診療や受入れに関する講演を行い、医療・介護従事者の理解を深めることができた。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・セクシュアルマイノリティを対象とした検査は試験段階であるものの、狙い通りの効果を得ることが出来るなど、課題解決に向けて順調に進捗している。 ・訪問医療介護事業者を対象とした実地研修を実施することができなかった。
今後の取組みの方向性	・今後、セクシュアルマイノリティや高齢者福祉関係者を対象とした事業について積極的に取り組んでいく。

(3) 結核対策

評価	A ・ ② ・ C ・ D
評価分析	補助を利用して計 27,761 名が健康診断を実施し、異常所見の認められる患者を 2 名発見するとともに、接触者健診においても発病の恐れがある者を含め 73 名発見し、早期の医療機関受診へと繋げることができた。
評価理由	平成 26 年の県全体での新規登録者数は、若干ではあるものの 1,353 名から

	1,329名への減少が認められ、5年連続での患者数の減少となるなど、課題解決に向けて比較的順調に進捗している。
今後の取組みの方向性	引き続き、定期の健康診断及び患者発生時における接触者健診等の積極的な推進を図るとともに、服薬支援については、手引きを作成することで円滑な事務の実施を図る。

(4) 予防接種の推進

評価	A ・ B ・ C ・ D
評価分析	平成27年3月末現在、県内の風しん患者発生報告数は大幅に減少しており、先天性風しん症候群患者報告数はゼロとなっている。
評価理由	風しん予防接種費用助成の効果等により、風しんの流行は沈静化している。
今後の取組みの方向性	風しん撲滅作戦の継続

(5) 神奈川版ACIPの設置

評価	A ・ B ・ C ・ D
評価分析	予防接種健康被害救済制度のあり方について議論された。
評価理由	予防接種健康被害救済制度のあり方の方向性について議論された。
今後の取組みの方向性	喫緊の課題となっている予防接種について議論を行うとともに、予防接種制度の課題や予防接種の実施上の課題について、議論を行い、必要があれば、国に提案等を行う。

4 総合評価

評価	評価理由
A	感染症の課題については、いずれについても、課題解決に向けて順調に進捗している。

5 特記事項

--